

テゼからの提言 2016年



いつくしみという勇氣

2015年、テゼでは年間を通して、緊急の課題として、新たな連帯の道を模索してきました。地上のあらゆるところで、新たな姿の苦悩——移民・難民に関する課題、生態学的・社会的な諸問題——が生じ、それらは諸宗教を信じる人にとっても、無信仰の人にとっても大きな課題です。

非人間的な主義主張のもとに行われる武器を用いた暴力は、多くを破壊します。物事を冷静に見つめつつ、不安から生じる恐怖に立ち向かう道のひとつとして「信頼の巡礼」をこれからも歩み続けるのです。地球規模の連帯を模索している人、すでにその連帯を具体的に生きている人にとって、互いに支え合うことが以前にもまして重要です。

嵐が襲っても岩を土台とした家は倒れません。 (マタイ7:24-25) キリストのことばという岩を土台として生きようと望むわたしたちにとって、この岩とは、福音のほんのわずかな真実です。それはだれの手にも届く真実です。それは、喜び、単純素朴、いつくしみ。ブラザー・ロジェはこの三つをテゼ共同体の生活の中心に据えました。それによって困難な時期も歩み続けました。この福音の三つの真実に、彼は毎日立ち戻って歩き続けたのです。

この三つのことば——喜び、単純素朴、いつくしみ——が、これからの3年間の歩みを導きます。2016年、わたしたちを導くテーマは「いつくしみ」です。それは教皇フランシスコによって始められた「いつくしみの特別聖年」に呼応しています。

福音は、神の深いいつくしみを証しするようにとわたしたちを招いています。以下、いつくしみの勇氣を喚起するためのテゼからの五つの提言です。

ブラザー・アロイス (テゼ共同体・院長)

f. Alois

提言：その一 自分自身をいつくしみの神にゆだねる

あなたは罪をゆるす神。恵みに満ち、憐み深く、忍耐強く、いつくしみに溢れておられる。

(ネヘミヤ9:17)

あなたがたの父がいつくしみ深いように、あなたがたもいつくしみ深い者となりなさい。(ルカ6:36)

聖書は神がいつくしみ深い方、つまり深い共感と親切に溢れた方であることを伝えます。父と二人の息子のたとえ話(ルカ15)を通して、イエスは、神の愛が、わたしたちの善行を前提とするものではなく、無条件でわたしたちに注がれることを宣言します。父は、父に生涯を忠実であった息子を愛し、そして同時に、自分から去ってしまった息子には、まだ息子が遠くにいるときから、ご自分の腕を彼に開いておられるのです。

神は、ご自分に似せて人間を創造なさいました。だからこそ『神の似姿』になるのは優しさを身につけることによるのです。キリストを着るために、深みから湧き出る共感と親切の心を身につけなさい。(カエサリアの聖パシレイオス・四世紀)

神の愛は永続する愛です。一時のものではありません。わたしたちは、他人への深い共感によって、神のこの愛を映します。キリスト者として、他の宗教の無数の信者たちと、いつくしみと親切を生活の中心に置くことの大切さについて分かち合うのです。

- ・神の愛を迎え入れるのです。神がわたしたちに心を閉ざすことは決してなく、神の変わらないこの優しさこそが、わたしたちがみずからの過ちによってつまづくようなときにさえ、わたしたちを守る砦なのです。もし、神から離れてしまっても、神に立ち戻り神に信頼を置くことを恐れてはなりません。神は、いつでも、わたしたちに会うために近づいて来てくださいます。
- ・祈りを、骨のおれる探究のように考えることはありません。そうではなく、祈りを、立ち止まって深呼吸するときとして迎え入れるのです。それは、聖霊が神の愛でわたしたちを満たし、いつくしみに溢れる日々を可能にしてくださるときです。

提言：その二 何回もゆるす、何回も

憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、ゆるし合いなさい。主があなたがたをゆるしてくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。

(コロサイ 3:12-13)

ペトロがイエスのところに来て言った。「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回ゆるすべきでしょうか。七回までですか。」イエスは言われた。「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までもゆるしなさい。(マタイ 18:21-22)

神のゆるしが絶えることはありません。その全生涯、十字架の上でさえ、キリストはゆるし続け、だれ一人も罪に追いやることをなさいませんでした。

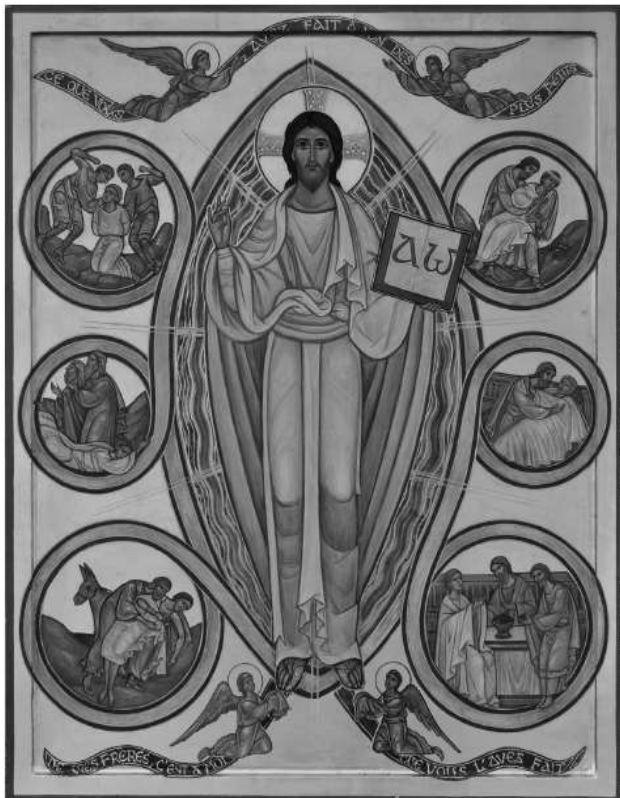
自分がゆるされたことを知り、自分も人をゆるす、これこそがもっとも解放された喜びです。それは、キリストがわたしたちに伝え分かち合おうとなさる平和の源。

教会——キリストを愛する者たちの集まり——は、いつくしみによってみずからを変容させるようにと呼ばれています。「教会がたゆむことなく耳を傾け、癒しの業に仕え、そして和解に生きるとき、教会はその本来の姿をもっとも豊かに光輝かせます。——それは、愛、いつくしみ、そして慰めの交わり（コミュニオン）、復活なされたキリストの澄みきった映し。決して距離をおくことなく、決して守りに立つことなく、あらゆる頑なさから解き放たれた教会。単純素朴に信仰により頼む、その教会の姿から光が輝き出し、それは人の心にまっすぐ射し込むのです。」(ブラザー・ロジェ)

神のゆるしの使信は、悪や不正義を正当化するために用いられてはなりません。その逆に、それは、わたしたちの過ちを、そして自分や世界の中に存在する不正義を、より自由に認識させます。本来正しく作られたものを正しく位置づけるのはわたしたちゆだねられた役割です。

- 七の七十倍であっても、ゆるす道を歩むのです。傷があまりにも深いときは、一步ずつ進めばいいのです。ゆるしたいという気持ちは、それが立ちあがってくるまでに、被った不正のゆえに、長期間自分の内に隠されていることがあります。
- 教会がいつくしみの共同体であることを、扉を大きく開くことで示すのです。人々を差別せず、いつも人をもてなすことによって、断定的に人を裁かないことによって、抑圧されている人を守ることによって、すべてを抱きとめ、寛容な心を差し出すことによって——。

いつくしみのイコン



提言：その三

苦悩の場に近づこう、

ひとりで、あるいは数名の仲間たちと

飢えている人に心を配り、苦しめられている人の願いを満たすなら、あなたの光は、闇の中に輝き出で、あなたを包む闇は、真昼のようになる。(イザヤ 58:10)

世の富を持ちながら、兄弟が必要な物に事欠くのを見て同情しない者があれば、どうして神の愛がそのような者の内にとどまるでしょう。(1 ヨハネ 3:17)

この「いつくしみのイコン」の中で、キリストは愛のまなざしでわたしたちを見つめ、善きサマリア人の物語(ルカ 10) 伝えています。ひとりの男が半殺しにされた状態で道端に横たわっています。祭司とレビ人がそこを通りますが、道の向こう側を通って去ってゆきます。サマリアから来た外国人がこの傷ついた男に近づき、世話し、宿屋へと運びます。

いつくしみはわたしたちの心を開きます。他の人の苦難に、目には見えない苦しみに、物質的な貧困と他の様々な貧困に、辛いときを過ごしていることにも、苦悩する家庭に、路上で暮らす人に、人生に意味を見いだせない若者たちに、孤立した高齢者に、故郷を失った人々に、そして、教育や芸術や文化に触れる機会が奪われている人々に。

貧しさの中で、キリストご自身が、わたしたちのいつくしみを待ち望み、こう告げておられます。「わたしが飢えていたときに、あなたは食べさせてくれた」と。(マタイ25)「深い共感のゆえに、キリストは一人一人の苦しみをその身に担われます。優しさのゆえに、神は、神秘的な方法で、世の終わりまでいつのときにも、人間一人一人の内にあるのと同じ苦悩を体験なさるのです。」(証聖者マクシモス・七世紀)

試練によって傷つくとき、キリストが世話してくださいます。彼の愛のまなざしは、自分のかたわらに来てくれるだれかの存在によって現されるかもしれません。ときには、たとえ話のサマリア人のように、人々から見下げられている人を通して現されることもあるのです。

- 勇気を出して、自分の周りの苦悩する場所に、道端に、近づくのです、ひとりで、あるいは数人の仲間たちと。いつくしみというのは感傷的ではなく、骨のおれる現実です。際限がありません。法律は、責務に関して明快な限定を定めますが、いつくしみは「これで十分、すべきことは終わった」とは決して言いません。

提言：その四 いつくしみを社会的現実を広げる

わたしこそ主。この地にいつくしみと正義と恵みの業を行う。(エレミヤ9:23)

主があなたに求めておられることは告げられている。正義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだって神と共にあゆむこと、これである。(ミカ6:8)

神の御心みの中では、すべての人間はひとつの家族です。ですから、神のいつくしみはあらゆる方向に限りなく広がります。

世界的連帯が本当に現実のものとなるためには、正義がさらに保障され、平和が維持されることが大切で、それを可能にする規約を民主的に定める国際機関の働きが促進されねばなりません。

貧しい国が抱える負債は、強大な国家や大企業がその国の資源を搾取したことから発生することが多いのです。自分には状況を変えることは何もできないと思われるときでさえ、この負債を免除することは正義を回復する道の一つであることは心に留めたいと思います。現代とは置かれている状況が異なりますが、聖書はこう告げています。「もし同胞が貧しく、自分で生計を立てることができないときは、寄留者ないし滞在者を助けるようにその人を助け、共に生活できるようにしなさい。」(レビ23:35)

世界中で、多くの大人、子どもたちが、故郷を去ることを強いられています。この苦境は、彼らの中に、どんな柵も乗り越えようとする強い衝動を生じさせます。富める国々は、無数の難民——主にアフリカや中近東からの——をもたらした歴史の傷に関して、何らかの責任を共有していることを認めねばなりません。

- 難民や移民の流入が困難な問題を生じさせているときであっても、これが同時に肯定的な機会であることに気づくことが大切です。富の豊かな国々の扉を叩く人々は、これらの国々に連帯の重要性を気づかせます。新しい活力が彼らからもたらされないでしょうか。移民の波によってもたらされたチャレンジに共に取り組むことによって、EUの国々は、忘れかけていた活力を回復させるのではないのでしょうか。
- 私たちは、見知らぬ人や異文化への恐怖を乗り越える必要があります。このような恐れは理解できます——移民を暖かく迎えるために働く人々の多くが、疲れ切っています。しかし、壁を作ってみずからを孤立させることによって恐れが消滅することはありません。見知らぬ人々の方に近づくことによって、恐れは乗り越えられるのです。未知の人々を、私たちの生活や文化の規範を脅かす者とするのではなく、同じ人類家族の一員として歓迎することが今緊急に求められているのではないのでしょうか。

提言：その五 全被造物へのいつくしみ

あなたは六日の間、あなたの仕事を行い、七日日には、仕事をやめねばならない。それは、あなたの牛やろばが休みを得るためである。(出エジプト 23:12)

あなたは六年の間、自分の土地に種を蒔き、産物を取り入れなさい。しかし、七年日には、それを休ませて、休閑地としなければならない。(出エジプト 23:10)

その当時の表現を用いて、聖書はわたしたちに呼びかけています、環境に深い愛情を抱くように、すべての生きものを尊ぶように、識別することなく大地を耕すことがないようにと。メソポタミアのあるキリスト者はこう記しました。「深い思いやりの心は、全被造物の中に、どんなに小さな悪も、どんなに小さな悲しみも存在することに耐えられません。」(シリアの聖イサク・七世紀)

環境破壊の最大の犠牲者は、通常もっとも貧しい人々です。気候変動の影響によって、すでに多くの人々が住み慣れた地を去らねばならない状況に置かれています。

大地は神に属します。人間は、贈りものとしてそれを受け取ります。そしてわたしたちには、この地球を大切にするように、その資源を無駄にしないようにという大きな責任がゆだねられました。大地には限りがあり、また人間もみずからの限界を認める必要があります。

この地球はわたしたちみんなの共通の住み家です。それが今日苦しんでいます。大規模な環境破壊、種の全体消失、生物の多様性への脅威、各地で見られる森林の消滅、これらに無関心でいるわけにはいきません。

- どのようにして、全被造物への連帯を表したらいいのでしょうか。日々の生活に影響を及ぼす決断をくだしてゆくこと、消費者・住民としてのわたしたちの行動を慎重に吟味すること、シンプルな生活様式を自覚的に選択すること。生活をシンプルにさせることは、喜びをもたらします。中には、環境問題や社会正義のために、毎月の初めの日を断食日にする人たちもいます。このように、みんなの共通の住み家であるこの地球のすべてのものに注がれる神のいつくしみを証してゆくことは、選択肢の一つではなく、この大地でしあわせに暮らすための条件なのです。

■テゼのウェブサイト

「テゼからの提言2016年」に基づく体験の分かち合いが紹介されます。あなたの体験をお送りください。
echoes@taize.fr

■テゼ 2016年：年間を通じて

毎週、日曜から次の日曜まで、青年の集いが開催されています。信仰の源泉に向かい、神のいつくしみについての理解を深め、それをそれぞれの日常でどのように証してゆけるのかを模索します。

■2016年8月28日～9月4日

18歳～35歳の青年が対象で、学生、青年専門職者、ボランティア、求職中の青年が集い、共通する生活環境や労働について分かち合い、信仰の視点からみずからの将来について共に考えます。

■ブカレスト 2016年

ブラザー・アロイスは、数名のブラザーと様々な国の150人の青年たちと共に、4月28日から5月1日にブカレストを訪問し、ルーマニア正教会の人々と復活祭を祝います。(2016年、正教会の復活祭は西欧教会のそれから一か月後になります。)

この巡礼は、以下の巡礼に続くものです。イスタンブール(2013年・公現祭)、モスクワ(2011年・復活祭)、モスクワ、ミンスク、キエフ、リヴィウ(2015年・復活祭)

■コトヌー 2016年

ヨハネスバーグ(1995年)、ナイロビ(2008年)、キガリ(2012)に続いて、第4回アフリカ国際青年大会が、ベニンのコトヌーで開催されます。8月31日～9月4日。

「地上における信頼の巡礼」のこの新たな段階には、西アフリカの何千もの青年たちが集まります。アフリカの未来に希望を置く青年たちが互いを支え合う道を模索します。この大会では、アフリカの新しい世代の活力と潜在力に、そしてこの若い人々が世界に分かち合える価値に焦点を当てます。

この大会は、アフリカの他の地域や世界のその他の国々の青年たちも歓迎します。この地域をについて学ぶ機会となります。

■ヨーロッパ大会 2016-2017年

第39回目となる次回のヨーロッパ大会(2016年12月28日～2017年1月1日)の会場は、バレンシア大会の12月30日の夕の祈りの中で発表されます。

- その他の集いについての情報、また教会指導者たちや国際機関からバレンシア大会の参加者に送られたメッセージは以下をご覧ください。 www.taize.fr